

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		いきるちから2		公表日		2025年 3月 31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		児童が集中して活動しやすいように空間を仕切り、活動を分けている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		送迎や職員の出入りのタイミングでは集団で活動できる取り組みを準備している。 職員の得意分野を活かして子どもたちと関わる時間を作っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		落ち着いて活動ができるようにホワイトボードを活用している。 おもちゃの配置は活動に応じて収納するなどの工夫をしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		室内は明るく清潔にするように心掛けている。 定期的に換気をして、健やかに過ごせる生活空間を意識している。	活動中は空気の入れ替えができないため、外出に行く際にごまめに換気をしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		学習時や静かに過ごしたいときは個室を使用するなど、臨機応変に対応している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		いただいた意見を受け止め、職員間で情報共有し、話し合いの時間を設けて業務改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		朝礼で情報共有を行い、意見交換の場を設けている。 職員から意見がある場合はしっかり話し合いの時間を設けて、業務の改善に向かうように努めている。	意見の偏りがないように全員が話をしやすい環境作りを心掛けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		外部評価は実施していないが、内部監査をして、現状の確認や業務の再認識を定期的に行っている。 こども部会などで他事業所と情報共有をして業務改善に繋げている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年間で研修日程を組み、実施している。 外部研修は代表者が参加して、研修後は職員に情報伝達をすることで全体周知している。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成・公表し、その中で児童に応じて支援内容を考えている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		定期的に面談の機会を設けて、保護者のニーズや本人の様子を聞き取り、分析をして計画書を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		作成の過程で会議を設けて、職員が意見を出せる機会を設けている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		作成した計画書は職員間で共有し、同じ目標を共通理解し、支援を進めている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントシートのほかにも現状を把握できるようなツールを用いて、総合的に判断ができるように取り組んでいる。		

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		保護者の面談の時間の中で、保護者と本人のニーズを引き出し、個別支援計画の作成を行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		月に一回、話し合いをして活動内容を検討している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		運動、SST、感覚、ルール、言葉など様々なテーマを基に固定化されないように工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		活動内容により、個別活動・集団活動の判断をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼で共有し、活動の内容や役割を理解したうえで取り組んでいる。	朝礼に参加できない職員への情報共有に漏れないように意識している。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		送迎後は時間が揃わないため、次の日の朝礼時に行っている。 朝礼に参加できない職員にはノートなどを用いてなど、情報共有している。	振り返り内容は朝礼ノートに残し、時間がたっても遡れるようにしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		児童ごとに記録を残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリングの時期に職員と話し合いの機会を設けて、意見を出し合い支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当者会議への参加の機会は少ないが、他事業所とのやりとりや情報交換を行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保護者からの依頼があれば連携をとっている。	こちらから連携をとることはなく、どう繋げていくかを考える必要がある。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		併用利用がある際は支援内容などの情報共有の機会を設けて、お互いの認識を共有している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			保護者の依頼により動くため、積極的に連携を図っていきたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			地域児童との活動や交流はなく、どう図っていくか今後検討していく。	

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時にその日の様子を伝えている。 日頃は電話やLINEを活用して連絡がとれる環境を整えている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	ペアトレのプログラムはないが、面談の際に家庭での困りごとを話し合う機会を設けている。 研修の実施はないが、研修の情報は提供している。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学や契約時に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		作成時には面談を行い、保護者や本人の意向を聞き取り、計画を作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談内容に応じて助言や面談を設けて、保護者が安心できるように努めている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者参加型イベントを実施して、保護者同士が交流を持てる機会を設けている。	定期的実施ができるように検討していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情があった時には管理者が対応し、状況の把握、対策を考え周知ができるように対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎日ブログを更新して、活動内容を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		データは外付けハードディスクに保管をして厳重に扱っている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		相手に合わせた伝達方法で伝えるように心掛けている。 職員が同じ対応をできるように職員同士で共通認識が持てるように意識している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域交流は図れておらず、今後検討していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		契約時には説明をしており、定期的に訓練の実施をしている。	契約後の周知は不足しているため、意識して取り組んでいく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		訓練実施を行い、活動内容を連絡帳やブログでお知らせしている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者に聞き取り、細かい変化に対応できるように職員間で情報共有をしている。 服薬がある場合は事前に同意書を提出してもらい、医師の指示通りを守るように心掛けている。	服薬の同意書の認識ができていない保護者さんもいるため、定期的に周知していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	○			現在、該当児童はいないが、同意書を作成して準備をしている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		定期的に研修や訓練を行い、安全に活動ができる環境を整えている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に非常災害時の対応を周知し、緊急連絡先の聞き取りを行っている。	

51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		その都度共有して、話し合い解決までの話し合いを実施している。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に研修を行い、事例検討をして職員の認識や知識を深めている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		契約時に説明を行っている。	現在、該当児童はいないが、同意書を作成して準備をしている。